

～風だより～

こうのとりの

第7号
2023.10.1

越前市エコビレッジ交流センター
(公財) 日本鳥類保護連盟福井県支部

尋常じゃない夏

日本鳥類保護連盟福井県支部長 林 昌尚

八月十九日、参加者十九名といった盛況の中、部子山登山が行われました。

昨年は天候に恵まれず、山頂行きは断念しましたが、今年は快晴の中で集合場所のアイパーク今立を出発しました。

山頂に近づくにつれて雲が多くなり、山頂に着く頃には、辺り一面雲に覆われてしまいました。それでも時折雲が薄くなり、大野市街地がうっすらと見えました。

林道終点から十五〜二十分で山頂まで登れるといった、軽登山ですが、その見晴らしの良さ、夏の終わりに咲く花々、実り始めたサルナシなど出会うことができ、皆さん笑顔の登山となりました。ところが歩くにつれて異常なことが起きているのに気が付きました。例年ならこの時期アカトンボやハナアブ、ハエなどを求めて、多くのツバメやバメの仲間が飛翔する姿が見られるのですが、今回は一羽も出会うことがありませんでした。

三日前に下見した際にはイワツバメが三羽飛んでいましたが、それでも例年と比べると極端に少ないです。



これは暑すぎる今年の夏の気温のせいでしょうか？いつも何羽も見られる猛禽類も全く飛びませ

ん。声が聞けたのはウグイス・ソウシチョウなどほんの二、三種類……。鳥の観察どころではありませんでした。そういえば今年も自宅近くでクマゼミの声を何度か聞きました。これも今までにはなかったことです。

完全に環境が壊れてきているのを実感します。「尋常じゃない夏」普通の夏に戻ることはあるのか？心配です。皆さんの身の回りの環境の中でも、おかしなことが起こり始めていませんか？今年もうしばらく部子山の自然の変化を観察してみたいと思います。部子山の帰り道、一羽のトビがイタチを捕えて重そうに飛んでいる姿が見られたことが、せめてもの救いでした

【事務局談】

部子山は、池田町と大野市の境界にある標高一、四六四mの山です。天気が良いと三百六十度の大パノラマの絶景が堪能できるとのこと。

昨年も今年もまだ拝めておりません。来年こそ！と思っているのは事務局だけでしょうか？

来年はこの山に決まるでしょう。楽しみます。



越前市坂口地区のコウノトリ情報



10年に一度、50年に一度、はたまた、100年に一度など、毎年のように異常気象であることをうたっています。でも、今年の夏程、異常気象を感じたことはないと思います。

坂口地区において、2か月ほど雨らしい雨が降らず、毎日のように35℃を越す猛暑で、ビオトープはみるみるうちに干上がりました。カンガレイやサンカクイのような所謂田んぼの雑草がはびこり、こんな状態で生きものなど望めそうにありません。たくさんのトンボが交尾をしているのですが、産卵する場所がなく、右往左往するのを見るのはとても辛いものがありました。坂口地区で3年続けて繁殖に成功したイチローくんとななちゃんも、たまにしか見かける事なかったです。田んぼには稲が生い茂っているし、ビオトープは干からびているし、で、とてもここには居られない、という状態だったのでしょう。

ビオトープを何とかしなければ、と悩んでいたところ、第1ビオトープは県外のグループが10数名で3時間以上かけて整備してくださいました。第2ビオトープは地区の方が重機を出しておこなっていただきました。ありがたいことです。

東大の学生と昨年より耕作放棄地をビオトープにし、生きものや植物ががどのように変わっていくか、モニタリングしていただいている第3ビオトープがあります。先日、地元の小学校1、2年生と、第2と第3ビオトープの生きもの調査をしました。干上がった第2ビオトープは植物が多く、辛うじて水が溜まっているところにイチョウウキゴケが残っていました。第3ビオトープには水生昆虫が多く見られました。子どもたちと改めて生きものにとって『水』が大事なことを確認しました。

一昨年3羽、昨年4羽、そして今年も4羽、繁殖に成功した坂口地区で、来年も成功するでしょうか。整備されたビオトープを眺めながら、早くも心は来年に飛んでいます。



沼にハマったきっかけ

日本鳥類保護連盟福井県支部 田中 綾子

「沼にハマった」と言っても沼に落ちてドロドロになったという話ではない。『趣味に熱中・没頭して、もはや抜け出せなくなっている、といった状況』という意味である。(weblio 辞書より引用)



私がバードウォッチングにハマったのは、福井県自然保護センター(福井県大野市)「冬の野鳥のレストラン」で見たヤマガラを近所の公園で見つけた瞬間からだ。

野鳥のレストランでは、餌が少なくなる冬場に餌台を設置し、そこに集まる野鳥を暖かい室内から観察することができる。冬季限定とはいえ野鳥に餌をやる行為はなかなかのグレーゾーンだと個人的には思っているのだが、寒さ厳しい時期に『暖かい室内で可愛い野鳥を間近で見られる』のは魅力なのでついつい足を運んでしまう。

バードウォッチングにハマる以前、野鳥のレストランでヤマガラを見たとき、「やっぱり大野の山奥だとこんな素敵な色の可愛い鳥がいるのね」と思い家路についた。その後、近所の公園を散歩していたら、青と茶色のあの羽色の鳥が目の前を横切った。「えっ、ヤマガラ?山奥じゃないのにヤマガラがいる!」ここから私のバードウォッチング人生が始まった。

なお、前述の「沼にハマる」の説明には続きがあり『たいへんな時間あるいは金銭を浪費してしまっているというニュアンスを込めて用いられることが多い』という意味も含まれるそうで、バードウォッチングに費やす時間とカメラ、まさに「沼にハマっている」なあと感じている。

坂口小学校の子どもたち(坂口エコメイト)との観察会

1回目 5月24日

2回目 7月11日

3回目 10月4日

第2ビオトープ



第3ビオトープ



第3ビオトープ	第2ビオトープ
マツモムシ	ヨコエビ
ドジョウのあかちゃん	ニホンアマガエル
イトトンボのあかちゃん	ツクシガエル
オタマジャクシ	アマガエル
サカマキガイ	シレーヤルアマガエル
イナゴ	マツモムシ
	アマガエル
	トイサマガエル
	イナゴ



写真がないので結果のみ

「部子山に行こう！」の参加者の声

- ・何もかもが新鮮で感動でした。今まで知らない世界を見せて頂きました。ほんとうにありがとうございました。(匿名)
- ・初めての部子山、説明付きで楽に行けて、下界とは違い涼しい時を過ごせて大変楽しかったです。(匿名)
- ・部子山へ向かう道すがらの空気の冷たかったこと!猛暑の中、こんなに涼しい場所へ案内してもらい感激しました。珍しい「アサギマダラ」も何匹も見られたし、頂上から眼下に大野平野も見られたし、いいことばかりでした。何より、林先生の案内、ご説明がとても分かりやすく、勉強になりました。とても楽しかったです。「ツバメ」の仲間、「ワシ」の仲間には残念ながら会えませんでした。十分満足しました。(大谷)
- ・部子山にも登れたし、チョウや鳥、植物についてのお話も聞かせていただいたので、とても楽しかったです。相乗りで、車に乗せていただき、知らない人とお話できるのもよかったです。少し世界が広がった気がしました。ありがとうございました。(匿名)
- ・初めて部子山に登れ、一人では無理だなあと、こういう機会があって本当に良かったです。アサギマダラを見る事が出来、思い出に残る1日でした。(石動)
- ・自然の中での体験が出来まして楽しかったです。天候が今一つでした。(匿名)
- ・初めての部子山。アサギマダラにも会えて感激でした。いろんな山のお話、三国の海も見えるという話、楽しかったです。(匿名)

編集後記

あんなに暑かったのに、急に涼しくなって、むしろ、明け方の気温の低さに「寒い!」という言葉が出てしまいました。

「気温差による体調不良に気を付けて」、というテレビからの声も、春先からずっと続いているような気がします。皆様、お体大丈夫でしょうか?支部交流会でお目にかかれるのを楽しみにしております。

さて、今夏の猛暑を「生きもの目線から考えてみましょう」と、10月28日(土)エコビレにおいて「魚」「鳥」「植物」を専門的にやられている3名の方からお話をお聴きします。何か一つでも「たくさんの生きものと共生」する里山を目指すヒントにしたいと思っています。(野村)

越前市エコビレッジ交流センター【住所】福井県越前市湯谷町 25-25-2

TEL/fax 0778-28-1123 E-mail info@ecovilg.jp

URL <http://www.ecovilg.jp/>

